

食品産業
もったいない大賞
審査委員会
委員長賞

★応募名称

中山間地域と市街地を**移動販売車が結ぶフードバンク活動**

★会社名・事業場名

株式会社ケンジャミン・フランクリン（岡山県加賀郡）

URL: <http://www.k-franklin.com/>

Facebook ページ フードシェアリングジャパン Foodsharing Japan

◆取組内容◆

【目的】

2005 年 11 月に飲食店「ベルネーゼ」を創業。代表者は、高校時代に大病を患い、命を取り戻した経験があるため、社会に役立つことをしたいと考え、ドイツで宅配と移動販売の修行した経験を活かし、2013 年 11 月に移動販売「ロンドン」スタート。山間部の農家からは喜ばれ、出荷できない野菜等をもらうことが多くなってきた。移動販売を通じて、世の中には生活困窮者がいることを知った代表者は、冷蔵設備のある移動販売車を利用すれば、農家の野菜も含め、食べられずに廃棄されてしまう食品を必要とする人に届けることができると考え、任意団体「フード・シェアリング・ジャパン」を立ち上げた。2018 年 3 月からフードバンク活動を開始。

【具体的な内容】

・週 5 日収集と配達：移動販売ノウハウやサービスを用いて、移動販売巡回地域周辺に立地している大型スーパーや農産物直売所から食品を集荷し、賞味期限・消費期限が 1 日以上ある冷蔵食品を冷蔵庫内で温度管理。集荷したその場で提供先に連絡して仕分けし届けるという積極的フードバンク活動を展開。

・中山間部の規格外農産物と市街地を結ぶ：大手スーパー等がなく買い物が困難である一方、農業が盛んで規格外農産物が大量に発生するのが中山間地域(過疎地域)。大手スーパー等は立地しているが、フードバンク食品として農産物の提供が少なく野菜や果物が不足している市街地。これらを「移動販売車」で結びつけ、中山間地域で発生した余剰農産物を市街地で活動する施設や団体へ寄付し、市街地で提供していただいた食品を中山間地域で活動する施設や団体へ寄付している。

・被災した仮設団地で毎週土曜日「無料移動スーパー」：倉敷市では、平成 30 年西日本豪雨による仮設団地に入居している被災者に対し、食品を無料で提供する「無料移動スーパー」を実施。平成 30 年 12 月 1 日より開始し、計 21 回行い、総計 2 トン 316 キロの食品(6618 食分)を被災者の方々へ無料提供した。

【効果】

- ・フードバンク事業開始時点で 2 社だけだった食品提供元は現在 6 社（9 店舗）にまで拡大している。
- ・中山間部農家が提供する規格外野菜の人气が高く、取扱量の 4 割を占める。
- ・2019 年 7 月には 5 自治体 27 施設・団体に寄贈先が増加。受け取った食品を必要とする団体等に確実に渡すことが可能。

◆今後の展開◆

- ・岡山県内で唯一、食品を適切な温度管理の下、配達するフードバンク活動団体であり、活動地域の拡大ニーズが高まると見込んでいる。提携企業や他団体との連携、イベントや募金活動等で、運転資金の確保を検討中。
- ・欧州のフードバンク視察を行い、フードバンクのあり方やその体制・方法を学び、フードバンク希望の団体や施設が負担の少ないフードバンク活動を活発におこなえる社会の実現を目指す。

◆評価◆ 冷蔵設備が整った移動販売車で農産物や日配品まで取り扱うことができるフードバンク事業は評価できる。



食品産業
もったいない大賞
審査委員会
委員長賞

★応募名称

食品廃棄物の利用価値を発信する活動

配合と発酵の工夫でエコフィード作成に成功

★会社名・事業場名

熊本県立熊本農業高等学校（熊本県熊本市）

URL : <https://sh.higo.ed.jp/kumanou/>

◆取組内容◆

【目的】

日本の養豚業では飼養経費の6割を飼料費が占めており、養豚農家の経営を圧迫している。本校においても同様であり、使われない海苔を飼料に配合して作った「海苔ノリたまご」（2015年販売開始）の考え方を養豚にも活かすことを考えた。熊本県は豊富な地下水を利用する食品会社が多いので、食品廃棄物からエコフィードを作成することによって、社会問題である食品廃棄物を減らし、食品会社の廃棄コスト削減にも貢献することを目指している。

【具体的な内容】

- ・食品会社5社から6種類の食品廃棄物：パン工場からはパンくず、納豆工場からは納豆と大豆皮、赤酒工場からは米粉、もやし工場からは緑豆、寒天工場からは天草を調達。
- ・配合と発酵の工夫で有効なエコフィード作成に成功：地元の飼料会社と農業研究センターの協力を得て、52種類のサンプルを作成・調査した。その結果、腐敗を防ぐ発酵飼料が完成した。
- ・肉質が向上：産業技術センターで肉質を検査した結果、エコフィードを与えた豚はうまみ成分が市販飼料で飼育した豚よりも全ての項目で上回っていたため「シンデレラポーク」と命名。
- ・「シンデレラポーク」を校内で生産販売：解体等は外注するが学内でスライス・パック・冷凍を行い、火曜・水曜・木曜・金曜の8時50分から9時まで校内で「海苔ノリたまご」と同時に販売。

【効果】

2016年度から研究を開始し、2018年度から販売が始まり、次の成果を得ることができた。

- ・一頭当たりの飼料費をエコフィード投与前後で比較すると市販飼料区で22,673円、エコフィード給餌区では2,254円となり20,419円の削減を達成。
- ・校内では部位によって量目は異なるが一袋500円で販売し、年間約150万円を売り上げている。この収益で加工等に必要設備等を購入しており、「シンデレラポーク」が事業として継続できる資金を確保している。
- ・農家に出向いて食品廃棄物の説明を行った結果、本校で集めた食品廃棄物を畜産農家9軒が飼料として活用している。

◆今後の展開◆

食品会社の食品廃棄物はまだ60%残っている。さらに、廃棄物を削減する為に次のような展開を目指している。

- ・「シンデレラポーク」は肥育期からエコフィードを与え、肉質向上を実現した。2019年度は子豚期から与えることによって更に美味しい豚肉を生産することができた。進化の意味を込めて「シンデレラネオポーク」と命名し、販売・普及活動を行っている。
- ・食品廃棄物を家畜用飼料として利用する畜産農家を増やして、廃棄物の削減と農家の収入増加させる取り組みを拡大したいと考えている。このために多量の食品廃棄物をエコフィードに加工する仕組みを、県内企業と連携して作ろうとしている。

◆評価◆

飼料費削減という切実な課題を解決するための取り組みが、付加価値の高い「シンデレラポーク」を生み出した。校内での生産販売であるため量的拡大は課題として残るが、廃棄物を養豚農家の所得向上に繋げる活動は評価できる。



第1回食品産業もったいない大賞 受賞者（平成26年3月）

農林水産大臣賞

- 山梨罐詰株式会社（静岡県静岡市） 缶詰工場のシロップ廃液を利用したメタン発酵システムの確立

農林水産省食料産業局長賞

- 生活協同組合コープさっぽろ（北海道札幌市） 循環型社会を目指した取組 ～バイオガスプラント～
- セカンドハーベスト・ジャパン（東京都台東区） もったいない食べものを、ありがとうへと変える、フードバンク活動
- ケンコーマヨネーズ株式会社（東京都杉並区） ポテト皮の液状飼料化で高度なゼロエミッションを実現
- 朝日酒造株式会社（新潟県長岡市） 燃料・資材・設備にかかるエネルギーがもったいない！ 清酒製造工場の環境活動
- 株式会社みすずコーポレーション（長野県長野市） 製造工程端材品の商品化

食品産業もったいない大賞審査委員会委員長賞

- いわて生活協同組合（岩手県滝沢市） 地産地消・産直の推進と創電でエネルギー削減！
- 株式会社大都技研（栃木県栃木市） 食品加工場への油水分離技術導入による資源回収と排水処理システムの改善
- パルシステム生活協同組合連合会（東京都新宿区） パルシステム100万人の食づくり・もったいないプロジェクト
- 湘南AO株式会社（神奈川県鎌倉市） 青みかんの活用 ～湘南みかんを守ろう～
- 特定非営利活動法人フードバンク山梨（山梨県アルプス市） 多くのステークホルダーとの連携で実現した食品ロス有効活用・食のセーフティネット事業
- 日豊食品工業株式会社 城南工場（熊本県熊本市） みんなの知恵と工夫で水とエネルギーの有効活用

第2回食品産業もったいない大賞 受賞者（平成27年3月）

農林水産大臣賞

- スターバックスコーヒー・ジャパン株式会社（東京都品川区）、株式会社メコン（愛知県名古屋市中区）（連名） コーヒー豆かすリサイクル（牛の飼料化）の取組

農林水産省食料産業局長賞

- 株式会社伊藤園（東京都渋谷区）/東洋製罐株式会社（東京都品川区）（連名） 持続可能な消費を実現した新飲料充填システム
- 株式会社日本フードエコロジーセンター（神奈川県相模原市） 多様な食品廃棄物のエコフィード化とリサイクルループの構築
- みやぎ生活協同組合（宮城県仙台市） エコフィード化（液飼料）によるCO₂ 削減
- 山崎製パン株式会社（東京都千代田区） 各工場における地域農産物を利用した製品開発の取組
- 株式会社ローソン（東京都品川区） 自然冷媒（CO₂ 冷媒）活用等による地球温暖化防止の推進

食品産業もったいない大賞審査委員会委員長賞

- 伊万里市農業協同組合小葱部会（佐賀県伊万里市） 伊万里のもったいない（未利用農産物）をゼロに ～伊万里グリーンカレー物語～
- うどんまるごと循環コンソーシアム（香川県高松市） 廃棄うどんをバイオガス発電し、肥料から小麦を作り、うどんを再生するプロジェクト
- 加藤産業株式会社（兵庫県西宮市） お得意先様との連携による配送車両台数の削減等、積極的な環境活動を実施
- 株式会社こむらさき（宮城県仙台市） ラーメン店厨房内で行う節水・省エネと排水量及び汚濁負荷の削減
- 株式会社ユーグレナ（東京都文京区） 炭素循環型社会を目指した食品生産利用技術

第3回食品産業もったいない大賞 受賞者（平成28年1月）

農林水産大臣賞

- 三井化学東セロ株式会社（東京都千代田区） 鮮度保持フィルムの製造販売による食品ロスの削減

農林水産省食料産業局長賞

- 味の素ゼネラルフーズ株式会社（東京都新宿区）
スティックミックス商品のコンパクト化による容器包装の軽薄短小化と輸送効率向上及び「ほっとするエコ」マーク表示による消費者への伝達
- 甲陽ケミカル株式会社（鳥取県境港市） 地元水産加工残渣だったカニ殻を利用した健康食品素材等の開発
- 株式会社長野地方卸売市場、長野卸売市場協同組合（長野県長野市）（連名）
食品を大切に：市場一体となって生ごみの減量化等をはじめとした「環境型社会」に挑戦 ～日本一美しい市場を目指す～
- 富士電機株式会社（東京都品川区） 高機能保冷コンテナを活用した物流効率化による消費エネルギー削減及び包装材使用量削減
- 松本市役所（長野県松本市） 「残さず食べよう！ 30・10運動」をはじめとする食品ロス削減の取組

食品産業もったいない大賞審査委員会委員長賞

- 油藤商事株式会社（滋賀県犬上郡豊郷町） 地産地消エネルギー・廃食用油をまちのエネルギーに
- 有限会社エコ・ネット（青森県弘前市）
〇〇〇が生ハムになっちゃった ～エコフィード製造から精肉等の販売まで 食品リサイクルループの構築と地元雇用の創出～
- 大分県立大分東高等学校（大分県大分市） リポベジって知っていますか？ ～再生栽培の野菜を利用することによる生ごみ減量化～
- 太田油脂株式会社（愛知県岡崎市） 資源循環型事業における使用済み食用油のバイオディーゼル燃料（BDF）への活用
- 合同会社西友（東京都北区） 西友のインフラを活用した規格外野菜の定期的寄付
- 大日本印刷株式会社（東京都新宿区）、フジッコ株式会社（兵庫県神戸市）（連名）
地球温暖化防止に貢献できる画期的な食品製造システムで作る「美味しいレディミール」

第4回食品産業もったいない大賞 受賞者（平成29年3月）

農林水産大臣賞

- 松本大学、長野県中信地区6次産業推進協議会（長野県松本市）（連名） そば粉とわさびのゼロミッションプロジェクトによる安曇野6次産業の推進

農林水産省食料産業局長賞

- 熊本県立熊本農業高等学校（熊本県熊本市） 高校生による「規格外海苔からブランド卵・海苔ノリたまごの開発」
- コカ・コーライーストジャパン株式会社（東京都港区）、一般財団法人蔵王酪農センター（宮城県刈田郡蔵王町）、
宮城県蔵王町（宮城県刈田郡蔵王町）（連名） 茶殻と乳清を地域資源に ～地元産エコフィードで育てた牛による蔵王町振興の取組～
- 食品ロス削減連合会（東京都豊島区）（相模屋食料株式会社、株式会社伊藤園、国分グループ本社株式会社、株式会社タイヨー、ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社、一般財団法人日本気象協会） 需要予測の精度向上・共有化による作りすぎ廃棄ロスの削減と省エネ
- 日本マクドナルド株式会社（東京都新宿区） オーダーメイド方式によるファストフードの食品ロス削減
- 福井県 「おいしいふくい食べきり運動」と「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」による食品ロス削減の取組

食品産業もったいない大賞審査委員会委員長賞

- 味の素ゼネラルフーズ株式会社（東京都渋谷区） ペットボトル商品への再生耐熱PET樹脂100%導入による、「完全循環型リサイクル」の実現
- 味の素冷凍食品株式会社 九州工場（佐賀県佐賀市） 低温水熱源ヒートポンプ利用など、各種取組による熱エネルギーの有効活用
- 株式会社伊藤園（東京都渋谷区） 遊休農地と地域人材を活かして新たな茶産地を創生
- 国分グループ本社株式会社（東京都中央区） 輸配送時のもったいない待ち時間削減のための「入荷受付システム」の導入
- 生活協同組合連合会コープ東北サンネット事業連合（宮城県富谷市）
生協の物流を使って東北6県に広がる、被災地だからこそ出来る災害用備蓄品の有効活用
- ヤマキ株式会社（愛媛県伊予市） 「鰹節だし抽出殻」の調味料化による資源リサイクル技術の確立

第5回食品産業もったいない大賞 受賞者（平成30年1月）

農林水産大臣賞

- ユニー株式会社（愛知県稲沢市） 食品リサイクルループは命をつなぐ環

農林水産省食料産業局長賞

- 北海道美幌高等学校（北海道網走郡美幌町） 規格外野菜を用いた循環型養豚経営の構築
- 三菱食品株式会社（東京都大田区） 製・配・販連携によるサプライチェーン全体の効率化活動
- ミナミ産業株式会社（三重県四日市市） おから無排出化による資源の有効活用

食品産業もったいない大賞審査委員会委員長賞

- 伊賀の里モクモク手づくりファーム（三重県伊賀市） 6次産業を活かした食農体験施設を軸とした『できるかぎりやさしさ宣言』
- 井村屋グループ株式会社（三重県津市） エコロジカルはエコノミカル！～木質バイオマスボイラー導入などCO₂削減活動を含む環境マネジメント～
- 日進乳業株式会社アルプス工場（長野県駒ヶ根市） 中小企業における電力使用量削減などの省エネルギーの取組
- 日本マクドナルド株式会社（東京都新宿区） PDCAシステム活用による省エネルギーシステム
- 株式会社マツザワ（長野県下伊那郡高森町） 地元関係者との連携による「摘果りんご」の活用
- 森永乳業株式会社（東京都港区） 長期保存可能な豆腐の開発及びおからの飼料化

第6回食品産業もったいない大賞 受賞者（平成31年1月）

農林水産大臣賞

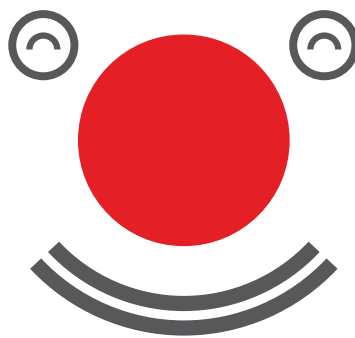
- 特定非営利活動法人伊万里はちがめプラン（佐賀県伊万里市） 「生ゴミを宝に！」食資源循環による地球温暖化防止の推進を目指して

農林水産省食料産業局長賞

- 株式会社グリーンメッセージ（神奈川県大和市）/ キューピー株式会社（東京都渋谷区） 野菜未利用部サイレージによる三方よしの取組
- 株式会社ハローズ（広島県福山市） フードバンク提供促進の先進的な取組
- 株式会社平井料理システム（香川県高松市） 「地産循環型再利用」による食品残さ対策

食品産業もったいない大賞審査委員会審査委員長賞

- 株式会社セブン&アイ・ホールディングス（東京都千代田区） サステナビリティ経営～社会課題の解決と企業価値向上を両立させるために～
- 住友ベークライト株式会社（東京都品川区） 青果物包装のトータルコーディネート・トータルソリューションによる食品ロスの削減
- 株式会社ハチバン（石川県金沢市） ハチバングループの食品リサイクルの取組み
- 大阪府立農芸高等学校（大阪府堺市） とびだせ！農芸エコフィード ～未利用資源を活かした畜産物の流通～
- 株式会社DINS堺バイオエタノール事業所（大阪府堺市） 廃棄飲料からバイオエタノール燃料を製造し循環型社会形成に貢献
- 鹿児島県立鶴翔（かくしゅう）高等学校（鹿児島県阿久根市） 食品廃棄物「ウニ」の有効活用でゼロエミッション ～SDGs持続可能な発展に向けて～



NO-FOODLOSS PROJECT

令和元年度農山漁村 6 次産業化対策事業

持続可能な循環資源活用総合対策事業

食品産業環境対策事業

優良者表彰の開催事業

公益財団法人食品等流通合理化促進機構

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 3-4-5 第 1 東ビル 6 階

TEL : 03-5809-2176 FAX : 03-5809-2183